

令和7年度使用中学校用教科用図書の「採択教科用図書」及び「採択理由」

【理科】

1 採択教科用図書

- 啓林館

2 採択理由

(1) 啓林館は、各学年の目標、内容、学習指導要領の趣旨を踏まえて、次のような編集がなされている。

- 理科の目標を達成するために、単元の導入において、「学びの見通し」「学ぶ前にトライ！」を設け、様々な知識を活用して解決する問いを設定し、課題意識をもって学習に取り組むことができるようにしている。また、単元末に「学んだ後にリトライ！」で同じ問いを設け、単元を通した学びを科学的に探究できるような構成・配列等の工夫が見られる。
- 主体的・対話的で深い学びを展開させるために、各単元に1つ「探Q実験」を設定し、「探Qシート」により生徒の主体的な学習を支援している。また「Action 活用してみよう」など、既習事項を活用して思考・表現する場面を設定することで学びを深めるような工夫が見られる。
- 学習効果や使用上の利便性を高めるために、学習の各段階でICTをどの場面でどのように使うのかを明記している。また、章ごとに設定した「Review ふり返ろう」では、知識・技能や思考力・表現力を意識できるような工夫が見られる。

(2) 啓林館は以下の点で、特に本地区の実態に合致していると言える。

- これまでの学びを生かすために、章の初めに「つながる学び」を示し、二次元コードで既習事項を確認できる工夫が見られる。
- 「防災減災ラボ」「お料理ラボ」では、地域や日常生活と関連付けて考えられる工夫が見られる。さらに、本地域の実態への配慮では、「防災減災ラボ」において身近で発生しうる災害に対し知識を生かせる工夫が見られる。

椎葉村教育委員会においては、北部採択地区協議会での「研究資料」及び専門委員の報告に対する質疑・応答後の選定結果を参考に、教育委員による協議がなされ、啓林館の教科用図書が最適であるとして採択した。